

2024年4月2日 第3472回例会 会場：川越プリンスホテル5階

会員数：97名 免除出席者：3名 正会員出席者：51名 出席者：54名 早退：1名 出席率：55.67%

プログラム

点鐘（12：30）／ロータリーソング（第1例会：君が代・奉仕の理想）／ビジター・お客様紹介／卓話講師紹介／会長の時間／幹事報告／委員長報告／ニコニコボックス／出席報告／卓話／点鐘（13：30）〈司会：小林SAA〉

《ビジター・お客様紹介》

《卓話講師紹介》 沢田 通会員

会長の時間



2023-24年度 会長 坂口 孝

理事会報告：会員の退会、異動による退会で3名、会社の都合で事後の理事会承認となりました。

新しい方の紹介、皆様の元にご通知で申し上げます。なお異動による変更だけでなく新規に仲間が増えます。

川越八幡宮の子供相撲協賛の件、例年通り可決させて頂きました。

3/31 川越市旧織物市場がインキュベーション施設(コエトコ)という名前に変わりました。オープニングセレモニーが開かれました。記念事業として燈火器(陶器でできた照明器具)を寄贈させて頂きました。奉仕の理念に則り「受ける側が何をしてもらいたいのか？」を念頭に置き、委員会の皆様のご尽力もあり今回の記念事業を行う事が出来ました。

2025年4月に規定審議会があります。多くの地区・クラブから立法案が出されます。今年、国際ロータリーの理事会としての条提案が出て参ります。その中で気になった点のご報告は「年次地区大会を開催するという要件を削除する」との条項。恐らく、義務化を無くす、というスタンスではないか？との推測です。

クラブに直接関係する所としては「人頭分担

金を決定するプロセスを改正する」という事。人頭分担金を上げる時の手続きを簡素化して通し易くする、という事が考えられます。「人頭分担金を増額し、決定方法を改正する」とのことから、益々上がっていきたくらいだと思います。

3/30に行われたPETS(会長エレクト研修セミナー)並びに地区研修協議会の名称を改正する、という案件が来年の4月規定審議会にて提出されます。研修(トレーニング)から学習(ラーニング)への考え方になると思われます。

幹事報告



2023-24年度 幹事 栗原 雄一

- ・4月のロータリーレート
1ドル=151円(3月に同じ)
- ・配布物

会報、川越市立美術館令和6年度展示案内

回覧 ガバナー月信 4月号(地区 HPにて)

- ・ご案内 いもの子作業所チャリティーコンサート 6/1(土曜日)
- ・地区 能登半島地震支援金 お礼

委員長報告 西川会長エレクトより



PETSの報告

皆さんがロータリー奉仕事業を通じて色々実施して下さい。その為には資金が必要ですので財団への寄付もお願いします。そしてメンバーを増やしましょう。活動を通じてロータリーの奉仕の感動を得てください。

《次週卓話》 上原 孝之 会員

ニコニコボックス

- 3月31日川越市文化創造インキュベーション施設の竣工記念式典に御出席頂きありがとう

ございます。本年度の記念事業の陶火器の寄贈も出来ありがとうございます。職業社会奉仕委員会の皆様ありがとうございました。長年に渡り、西澤会員におかれましてはお疲れ様でした。<会長、幹事>

●本日の卓話担当、沢田通会員宜しくお願いします。<会長、幹事>

●皆様の御支援により旧川越織物市場がインキュベーション施設として再建されました。今後川越市の経済、文化、芸術、観光に資することを期待しています。<西澤>

●川越市文化創造インキュベーション施設「コエトコ」竣工致しました。RCメンバーもたくさん集っていただきました。特に西澤さんは、2001年以来市民運動をたちあげ、今回の完成まで御尽力されました。おめでとうございます。<岩堀、水村、野溝、福岡、小杉、小橋、住谷、高原、西川、福本、津田、戸口、柏倉、石井、廣瀬>

●本日の卓話よろしくお祈りします。<沢田>

●沢田会員の紹介者として、本日の卓話楽しみにしておりました。良いテーマですね。中身も期待しております。<野溝>

●沢田会員、本日の卓話よろしくお祈りします。沢田会員が語る「川越のお話」楽しく聞かせて頂きます。<小橋、小杉、島村、山田(哲)、住谷、西川、片山、齊藤(智)、石井、小高、高橋(哲)、中野(文)、相原、近藤、小谷野、神谷、久保田、鈴木(壮)、荻原、高原、小林、福本、柏倉、津田、古尾谷、廣瀬>

●誕生日の御祝ありがとうございます。ゴールデンウィークにいただきたいと思っております。<荻原>

●欠席させていただきます。<和田(喜)>

●早退1名(敬称略)

合計65,000円

卓話 沢田 通会員

○自己紹介

趣味 ゴルフ・芝生いじり

川越生まれ 川越育ち

高階地区清水町在住(戦後に出来た新しい町)

大学卒業後「株式会社武蔵野」に就職。超体育会系の会社であったが、会社の仕組みは全て見える化が進んでいて社長自らが率先垂範する社風。退職後、現在の会社に戻り東日本大震災被災

地で2年間支援活動。その後、埼玉の管理物件の補修に携わり口コミでお客さまが増え100棟程の修繕を行い、川越に戻ってきて耐震補強工事を担い現在に至る。



○様々な活動を通して思う川越 旧市民と新市民の意識の差があると感じる。例えば、川越夏祭りや西口の小学生の手形、手作りの子供神輿で昭和の町を担いで回るなど。

川越市において戦前戦中は財政に苦しんでいて合併をしたかったが、昔は、畑は儲かって田んぼは儲からない。それによって川越市の北と南で考え方が違って、戦後(昭和30年)にやっと合併に繋がった。合併により人口10万人まで増え、高度成長期を経て現在の35万人まで伸びる。昔は川越に住んでいても、中心部に行く場合に「川越に行く」との認識があり、中心部とそれ以外に住む方との意識の差があった。

課題として、人口が若干減っている事。現在は転入と転出が横ばい、死亡者数が出生者数の倍であり自然減が発生している。令和4年より前は転入者が多かったが、現在は転入が追いついてない。生産年齢人口は10年前からずっと減少傾向。

川越市の産業については、近隣の市町村に比べて農業・商業・工業・観光とバランスの取れた産業構造をしている。農業において働く人の年齢が若い事で非常に未来がある。観光においては今後増加傾向にありサービス業の就業人数は非常に増えている。

川越市は近隣市町村に比べて学力が低いと言われていた。埼玉県は全国に比べて高い。原因としては学校の老朽化や学習環境(エアコン設置)が遅れていた事。

施設の老朽化も課題。再開発も進んでいるが、川越は埼玉県の中心地であって最初の市である事、それによりインフラも一番古いので、どうしても他の市町村よりも老朽化してしまっている。財政においても日本政府からの補助金を期待したい。

川越市はロータリーをはじめ、色々な団体がある。川越は青年部が活発に活動していて、街に携わる人数がどんどん増えている。川越中心部のまだ知られていない素晴らしい魅力を発信していくべき。